

V. 特記事項

1. 海外協定校との学生交流

国際センターでは連携協定による大学間交流を積極的に行っており、その中でもショートステイプログラムの受入れは北海道の地域性の特色を生かした文化研修を提供し、相互交流を深める貴重な機会となっている。新型コロナウイルス感染症により一時中断していたものの、令和 5(2023)年 6 月には中華民国の協定校から学生 10 人と引率教員 1 人を受入れ、5 日間の文化交流研修を行った。本学学生との交流、日本語クラスの受講、日本や北海道の文化に触れる体験、札幌・小樽観光など様々な体験プログラムを用意し、本学の学生にとっても有意義な交流となった。スキーなどのウィンタースポーツの体験プログラムは大変人気があることから、令和 6(2024)年 1 月には協定校である中華民国の高校から生徒・教職員あわせて 36 人を受入れ、ニセコでのスノーアクティビティ体験を盛り込んだ 5 日間の文化研修プログラムを提供した。

2. 外国人留学生の日本語力向上のための取組み

外国人留学生の日本語力向上のため、プレースメントテストの結果により留学生の日本語レベルを把握しクラス分けをして日本語クラスの授業を展開し、週 2 コマで展開している。レベルは中級、中上級、上級をそれぞれ複数クラス用意し 10 人程度の少人数制を採用し、選択科目では日本語能力検定(JLPT)の N2、N1 受験対策クラス、ビジネス日本語クラスも開講し、常時約 10 クラスでの授業展開をしている。また、**JLPT** 受験対策や模擬試験の実施、ビジネス日本語能力テスト(BJT)受験対策などの資格取得を全面的にバックアップする体制をとっている。主に中級レベルの留学生を対象に長期休業期間に集中講座を開講し、授業以外での日本語学習機会を多数用意して留学生の日本語力向上を図っている。

3. 留学生の受入れ拡大に向けた取組み

海外協定校からは、編入学制度やダブルディグリー制度を利用した入学者の受入れをしている。オンラインでの大学説明や入学相談を実施し、入学を希望する留学生へ丁寧な説明を行っている。国内の日本語学校からの受入れは北海道内に限らず、首都圏、関東圏、関西圏などからの入学希望者もあり、入学試験の実施においては本学の会場のほかに東京での試験会場も設けている。また、年間 5 会場程度の留学生を対象にした説明会に参加し、大学進学を希望する日本語学校に通う留学生や日本語教師への説明を行っている。入学試験は海外にも会場を設け、令和 5(2023)年度は海外協定校での実施のほかに、中華人民共和国(瀋陽)、ミャンマー連邦共和国(ヤンゴン)、大韓民国(釜山)で入学試験を実施した。